



臨床検査技師の役割

臨床検査科技師長 福田 隆広

臨床検査技師の仕事は、病気の予防や診断・治療のために必要な検査を実施し信頼性の高いデータを提供することです。法律では、「医師の指示の下に検体検査などの他に生理学的検査を行う事ができる。また、診療の補助として採血（おおむね20ml以内）も業務の一環として認める」と定められています。当然、国家試験に合格しないとできません。

今では、心電図検査や超音波検査（腹部・心臓・乳腺・頸動脈・下肢静脈）などの生理機能検査の需要が増加しています。臓器の実際の動きや形態を画像に表し、患者さんに苦痛を与えず実施できる検査です。検体検査も医療の高度化に伴い機械化され検査項目が増えることで、検査結果を読み取ることができると高度な知識を持った人材が求められています。検査結果を誰よりも最初に見られるのは臨床検査技師だからです。特に、輸血検査や病理検査は、認定資格の取得が望まれる分野です。また、チーム医療の精神の普及により、糖尿病療養指導や院内感染対策チーム・栄養サポートチームへの参加、患者さんへの検査内容の説明など業務内容は拡大しています。採

血業務は、一昔前ですと看護師さんが行っていましたが、今では、臨床検査技師の業務に成りつつあります。看護体制の変化により看護師が不足しているのも一つの原因ですが。このような時代に、臨床検査技師は、患者さんのために医師・看護師の協力を頂き業務に邁進しなくてはなりません。多くの要望に全て対応できませんが、優先順位に従って一つでも多く実施したいと考えます。その事が病院内に検査科が配置されている意義が増大するのです。

検査科で検査を待っている時代から患者さんの傍で検査をする時代に変化しています。我々も時代の波に乗り遅れないようにしっかりと前を向いて行きます。過去の思いに浸っていたら取り残されてしまいます。当検査科も皆様から支持されるよう努力をして行きますのでよろしくお願いいたします。